

取引所統合と我が国証券市場の展望

大崎 貞和（野村総合研究所）

東京と大阪という日本を代表する二つの証券取引所の経営統合によって生まれた日本取引所グループは、国内においては、現物株式取引、デリバティブ取引のいずれにおいても、圧倒的なシェアと影響力を有している。しかしながら、国際的な市場間競争が活発化する一方で、成熟化した日本経済の高成長が望めないという環境の下、市場の更なる発展へ向けての課題は少なくない。

本報告においては、日本取引所グループが直面する課題について、次のような論点を中心に検討を加える。

- 現物市場における競争 ～PTS との注文獲得競争～
- 現物市場における競争 ～海外企業の上場誘致と日本企業の海外上場への対応～
- デリバティブ市場における競争 ～総合取引所化という課題～
- 自主規制の課題 ～独立性の維持と市場の競争力向上、虚偽情報開示への対応～